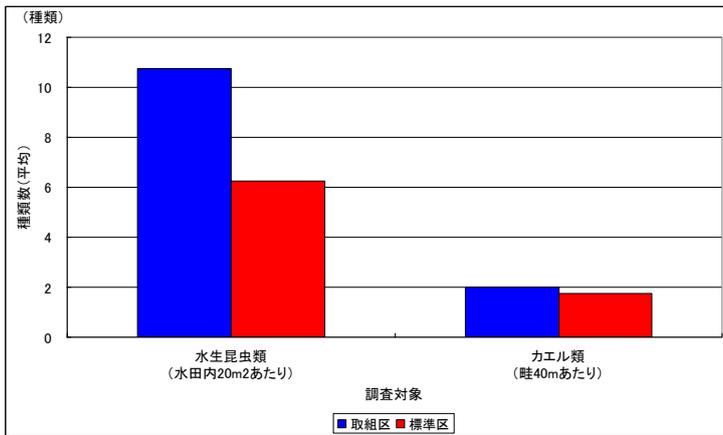


# 生き物緩衝地帯

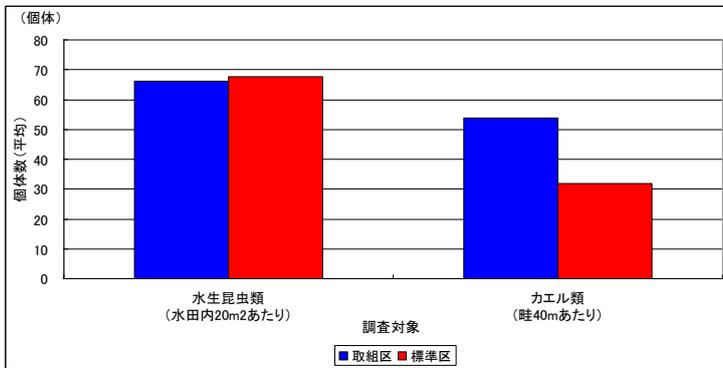
## 取組区と標準区の比較

	種類数		個体数		多様度指数※	
	取組区	標準区	取組区	標準区	取組区	標準区
水生昆虫類(水田内20m <sup>2</sup> あたり)	10.75	6.25	66.25	67.75	1.88	2.30
カエル類(畦40mあたり)	2.00	1.75	53.75	31.75	0.20	0.63

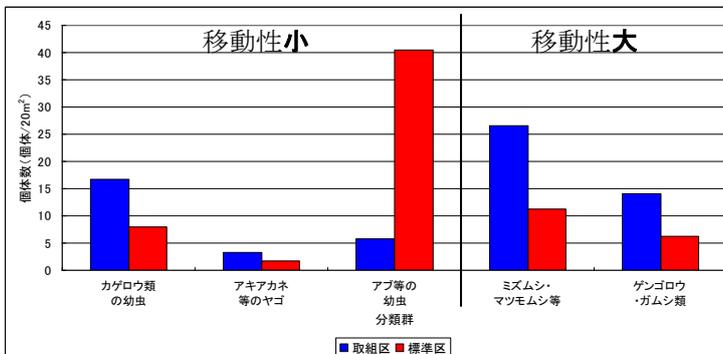
※多様度指数は「種の豊富さ」と「個体数のばらつき」を評価したもので、数値が大きいほど生き物が豊かでバランスが取れていることを意味する。



種類数



個体数



取組区と標準区における水生昆虫の比較



水草等が茂った生き物緩衝地帯の水路



生き物緩衝地帯の水路でみられたメダカ

生き物緩衝地帯の取組区分において、取組区と標準区を比較すると、種類数とカエル類の個体数について、取組区のほうが多くなる傾向が認められた。

また、生き物緩衝地帯を整備することで、移動性の大小によらず多くの生き物が利用していることが確認された。